

KENKAI SHINBUN
犬界新聞

振替 東京00160-1-38562 年間購読料 14,000円 銀行口座 リソナ銀行練馬支店(普通) 488833
 昭和32年6月25日第三種郵便物認可毎月1回15日発行
 発行所 犬界新聞社 〒355-0214 埼玉県比企郡嵐山町大字志賀364-3 TEL&FAX.0493(62)0971

**2007年SVジージャーでR・マイヤー(審査員長)より
 全クラスを通じ最優秀犬に選ばれた若き女王!!**



1949年農林水産省認可

JKCには愛犬家がいっぱい! あなたと愛犬の入会を
 お待ちしております。

国際的に通用する血統書を発行する政府公認日本唯一の全犬種団体です。
 国際畜犬連盟(FCI)アジア地域代表国(FCI理事)、アジア畜犬連盟(AKU)会長国

社団法人 ジャパン ケネル クラブ

〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5 (須田町交差点かど) 電話03-3251-1651 (代表)
<http://www.jkc.or.jp>



2007年度 SVジージャー展(若牝)単独ジージャー

パウラ フォム グット レーテ (牝)

Paula vom Gut Lethe (Hündin)

2006年7月28日生 SZ-2185986

父:ネグス v・ホルトケンパーゼー×母:オンドラ v・グット レーテ

7.8

月合併号
 VOL.614&615

2008年 SVランデス展(未牝)でも連戦連勝!!

- 3月30日 ケル展(未牝)単独ジージャー(審:D・ガブリエル)
- 5月4日 ラールズド展(未牝)単独ジージャー(審:P・オーダーマット)
- 5月10日~12日 メミンゲン展(未牝・18頭出場)単独ジージャー(審:R・マイ)
- 6月8日 オーバーヴィンデン展(未牝)単独ジージャー(審:L・シュヴァイクルト)
- 6月15日 キッペンハイム展(未牝)単独ジージャー(審:F・ホーレンシュタイン)
- 7月13日 ヘッセン展(未牝)単独ジージャー(審:L・ヴーシャラ)

株式会社 アルマード
 所有 **シュテーアウフメンヒェン犬舎**
 《東京都》

【取扱・管理】須山警察犬・愛犬訓練学校 ㈱スヤマコーポレーション
 代表 須山 永久 〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目7-1011-2
 ☎0463-96-6193 (調)、0463-96-6192 (FAX) ☎0463-97-2662 (ドッグラン) ☎0463-51-5096 (ケネル) <http://www.suyamadog.com>

Japanischer Verein für deutsche Schäferhunde



JSV

社団法人 **日本シェパード犬登録協会**

〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目28番1号 サトービル6階
 電話 03(3816)7431 FAX 03(3816)1063
 E-mail:info@jsv.ne.jp HP:http://www.jsv.ne.jp



THE NIPPON POLICE DOG ASSOCIATION Inc. P.D.
 Verein Für Japanische Polizeihunde e.V. P.D

社団法人 **日本警察犬協会**

〒110-0015 東京都台東区東上野4-13-7
 電話 03(5828)2521(代)
 振替東京4-22129

<http://www.policedog.or.jp>



「ドイツでのブリーダー活動を通して考えること」

大木政春

私は現在、ドイツにおいてシェパード犬、ダックス犬、ならびにクラインネ・ミュースター・レナード犬、という3種類のドイツ原産の犬の繁殖を行っており、私の本来の職業はドイツグランドメーカーの経営者であり、より良いドイツグランドメーカーの探求の途中で必要に迫られ、犬の繁殖を手がける事になりました。それもその犬の繁殖を行うきっかけも、ドイツグランドメーカーという大根が原点にあります。日本の犬の様々な問題に疑問を感じつつ、犬の健康性と健全性、犬文化構築のための探求を求め、より良いドイツグランドメーカーを目指した結果、ドイツの犬を取り巻く風土や文化、ならびに美しい自然環境にたどり着き、感銘を受けて渡独いたしました。

私は、犬の健康性や健全性は、食であるドイツグランドメーカーや、飼っている環境に左右されることはもちろんですが、ブリーダーに始まりブリーダーに終わるといっても過言では無いと考えています。

私の考える犬のブリーダーとは、何事にも共通して「探求」だと思っています。探求とは一言で言えば、自己鍛錬であると感じています。例えば、普通ではやらなくても良い作業を徹底的に繰り返して行い、普通では考えなくて済むことにも思考をめぐらし、普通では見過ごしてしまうところを見ながら進め、その犬種のあるべき姿を守り、骨格矯正の正しさを追及し、特にその犬種ならではの人間と共生する為の品性を高め、歯や色素や遺伝疾患等に気を配り犬の健康性や健全性を探求していく過程には、経済社会とはかけ離れた、無駄を惜しまず手間隙を掛け、費用対効果や努力対成果も省みず、いくらかやっても終わりのない努力と忍耐を要する、果てない夢への挑戦だと感じています。

そこには、犬種の健康性や健全性を守り、その犬種らしい品性を向上させるという信念に基づいた純粋な行動だけが求められ、自己満足という成果だけしか得られません。したがって、ブリーダーとは経済優先社会とは完全にかけ離れた、犬に対する愛情や哲学という世界を追求する喜びと考えています。

私は、犬の繁殖という使命を授かり、犬のブリーダーとして、素晴らしいブリーダー精神と技と伝統のあるドイツで学ばせていただいたことは、この上ない幸福感とやりがいを覚えています。まだ渡独して3年足らずの未熟者ですが、日々目標と夢に向かい学ばせていただき、小さな自己満足の成果を積み重ねているところです。振り返ればシェパード犬のブリーダーもドイツにおいてD体目の繁殖を終え毎日犬と2人3脚で訓練に励み、2頭を自身で訓練し犬と共に試験へ挑み認定資格「キョーリングテスト」

(SchH II IPO II) を取得するところまで至った事や、ダックス犬でも、C体目の繁殖を終え、自家繁殖犬と自身で育てたハンドリッグで1頭のフルドジュニアチャンピオン、1頭のインターナショナルチャンピオン、6頭のドイツチャンピオン、4頭のドイツジュニアチャンピオン、ならびに2頭のルクセンブルグチャンピオンを完成する事も出来ました。今後の身近な目標としては、シェパード犬のジグソーショーでVA評価をいただける犬の繁殖と養育管理ならびに訓練を目指し、また、世界中のブリーダーから交配をお願いされるような自家繁殖犬を完成させることを当面の目標にしております。

ドイツでのブリーダー活動を通して、考えさせられる点、このドイツは犬の法律がしっかりと確立されているという事。例えばシェパード犬を飼うためには「2m x 4m」の犬専用スペースがなければシェパード犬飼育の許可が降りなかったり、各犬種の協会がしっかりといて、各犬種で定めた繁殖認定を取得しなければ繁殖できない決まりになっています。結果、ドイツのブリーダーは繁殖認定の無い犬での安易な交配や繁殖を行うことはできません。多くの頭数を飼育し出す事は出来ません。そしてドイツのブリーダーは、良い仔犬を繁殖することはやはり、その犬種の品性をブリーダーに時間を費やし、犬種に対しての深い知識とトレーニング技術が無ければブリーダーではないという考えを持っています。

例えばシェパード犬のブリーダーなら、「SchH II IPO II」という日本での警察犬と同レベルの訓練を自身で実施していかなければなりません。社犬では「SchH III IPO III」程度では「SchH II IPO II」を、ブリーダー自身が「トレーナー」として資格を取得するのが当たり前とされ、クラインネ・ミュースター・レナード犬では、狼犬の資格をブリーダー自身が「トレーナー」として取得しなければ繁殖が許されない風土になっていたりする様です。

それはブリーダーのあり方が原因なのか、ペットショップで犬が手軽に飼える仕組みが原因なのか、犬という存在自体が社会に認められていない文化が原因なのか、はたまた全く違うことが原因でブリーダーの存在価値が社会的に高く評価されない傾向にあるのかは定かではありませんが、私的には日本はドイツと比べて犬が社会に認められていない社会風土や文化が最大の原因であるように感じています。

ヨーロッパでは、犬は社会の一員として受け入れられ、犬を欲しい一般の愛犬家は、ブリーダーに頼り犬を欲する手立てが無い犬種も高く買値を感じています。今後、日本においても犬の社会性や社会が犬を受け入れる文化なるものが確立されて行き、プロフェッショナルなブリーダーを支える風土が出来上がって行く事が急務のように思います。

ここ「BIGWOODドイツ犬舎」の事情としては、申請許可の無いドイツにおき、2年がかりで幸いにも3000坪の敷地に7LDKの人の住居と、8頭の犬が養育できる犬舎も持つことができ、金銭的敷地内にシユッツ訓練とドイツグランドメーカー訓練ができる新設許可も頂けることまで技術として、今後はブリーダーとしての精神や技術を学び探求しながら、ブリーダーやトレーナーやハンドラーを目指す研修生を育てて行き、訓練施設の開設を今年中に完成させ、自分だけの犬舎にするのではなく、同じ夢や目標と志を持つシェパード犬愛好家の同志を募り、互いに協力し合いながらブリーダーとしてのVA入りや、ブリーダーや認定資格の夢を実現していける日本チームの拠点としての「同志の犬舎」を創造していきたいと考えています。

日本においては2006年にドイツのクラブハウスをモデルにオープンさせた千葉と福岡の犬の総合教育施設、BIGWOODウエラカラで、最新の動物心理学や行動学に基づいた愛犬との対話を重視した科学的理論をベースにしたトレーニング方法の普及に努めると共に、2002年に理事・就任したNPO法人、犬の総合教育社会化推進機構(OPEDES)、2003年に設立したNPO法人、犬文化創造ネットワーク(イヌ・タオ・ネット)の活動や、日本全国で開催する講演会を通して、犬の社会性と犬が社会に受け入れられる犬文化作りと共鳴共感の輪を広げる活動を行って参ります。同志の犬舎は、いつでも見学可能です。ドイツへお越しの際は、いつでもご遠慮なくお立ち寄り下さい。



ドッグショー



ドイツ犬舎訓練所



ドイツ犬舎周辺散歩の様子



ドッグショー



シユッツ (防衛) 訓練



シユッツ試験



WORLD SHOW 2006



ドイツ犬舎



世界に通じるアジリティドッグの養成を目指す。

第1回 アジリティ実践ワークショップ開催!

開催日: 9月13日 (土) 11:00~19:00/ 9月14日 (日) 7:00~17:00 (予定)
 開催地: ビッグウッド九十九里ウエラカラ (担当: 高澤 TEL 0475-32-3981)
 講師: 田邊久人氏、小林智恵子氏

日々進化するトレーニング理論の座学から、現時点でのそれぞれのペアに合った方法を実践指導。「世界に通じるアジリティドッグの養成」をテーマに掲げ定期的に開催。
 内容: ハードルトレーニング「より遠くへ、より近くへ」など

詳細はこちら → <http://www.bigwood.co.jp/>

